

まち、ちいきの名前の由来を調べてみよう

土地のルーツを探る

今年、区制80周年を迎えた港北区は、2019年6月時点で34もの町名があります。普段何気なく目にしている地名の中にも、さまざまな由来が隠れています。地形に関する地名の謎を解き明かすために調べてみました。



てらやと たかた 寺谷戸遺跡(高田貝塚)の解説看板



まちやちいきの名前は、どうやって決まったんだろう？

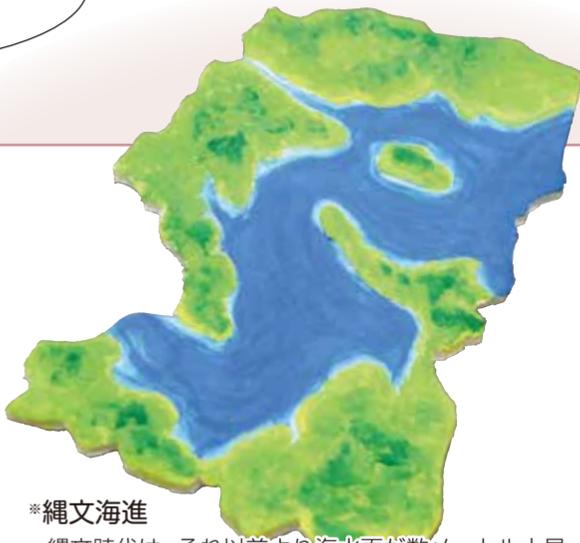
貝塚

縄文時代前期の温暖な気候により、現在の鶴見川流域付近(当時は海)の海岸線が上昇し、海水が浸入したといわれています(縄文海進*)。その沿岸を中心に、人々が居住していた遺跡や貝塚(貝殻を捨てる場所)が分布しているため、地名の由来となったといわれています。現在でも土中から貝殻が掘り出されることがあります。

師岡貝塚の解説看板



縄文時代の港北区(イメージ)



*縄文海進

縄文時代は、それ以前より海水面が数メートル上昇し、海岸線がずっと内陸にあり、現在の第三京浜道路周辺まで海水面があったといわれています。その後、海岸が後退する現象(海退)が起き、現在の姿になったといわれています。

綱島

「綱島」の由来は

- ①鶴見川と早瀬川の合流点に位置し、湿地に浮かぶ島「津の島」が転じて名付けられた説(下の地図を見ても、現在の綱島公園周辺が高台であることがわかります)
- ②かつてこの地を支配していた綱島三郎信照の姓から名付けられた説
- ③馬を生産していたため、馬に関する地名とされた説などがあります。



新吉田町方面

綱島台方面

師岡熊野神社付近からの景色

東急東横線と鶴見川が交わるエリアを中心とする綱島は、2018年春には綱島SST(サスティナブルスマートタウン)が完成し、また相鉄・東急直通線の開通や区民文化センターの整備も進められたりと、再開発が進む地域です。

岸根

「岸根」の由来は

- ①「崖かみの麓」という意味から名付けられた説
- ②昔、岸根付近は海岸で、その根元にあったという説などがあります。

市営地下鉄ブルーラインの駅名にもなっている岸根公園がランドマークとなっている岸根は、閑静な住宅街が広がっています。



地名は昔の地形から名付けられたものがあるんだね。

ふとお 太尾

大倉山の旧地名であり、2009年まで使用されていました。「太尾」の由来は江戸時代と古く、師岡から鶴見川まで続く丘陵地が、動物の太い尾に似ていることに由来するそうです。



この他にも「太尾」の付く停留所があります

菊名

「菊名」の由来は

- ①相模国三浦郡菊名邑の豪族である菊名一族が開発したことから名付けられた説
- ②「キク」がクク(包み込む)から転じ、丘がせり出した地形から名付けられた説
- ③駅からほど近い蓮勝寺の山号(寺院の名の上につける名称)「菊名山」から名付けられた説などがあります。

JR横浜線と東急東横線が交差する菊名エリアは、東側に鶴見方面へ抜ける菊名桜山公園などがある高台と、西側の新横浜方面に抜ける篠原の高台に挟まれた立地となっています。

他にも調べてみると、面白い由来がある地名がたくさんあります。詳しくは、図書館や地区センターの図書コーナーで資料を探してみてください。

参考:「港北区史」、「わがまち港北」平井誠二氏著、「港北歴史地名ガイドマップ」港北地名を調べる会編集・発行

●問合せ
区役所企画調整係 ☎ 540-2229 fax 540-2209

谷、谷戸

谷戸とは、山の一部分が雨水などにより浸食され、谷になった地形をいいます。区内には「や」「やと」がつく地名が点在しており、例えば師岡町の「表谷」や、篠原町の「会下谷」などがあります。水田を開くための高度な技術が不要だったため、稲作に適していました。また、周辺の樹林地から生活に必要な食糧や燃料(まき)、道具などを調達できた土地だったと考えられています。

